

平成30年度第2回 日本中央競馬会畜産振興事業 公募要領

1. 総則

日本中央競馬会（以下「競馬会」という。）が助成を行う平成30年度第2回日本中央競馬会畜産振興事業（以下「畜産振興事業」という。）の公募に当たっては、日本中央競馬会法施行規則（昭和29年9月13日農林省令第56号（以下「施行規則」という。））に定めるもののほか、この要領の定めるところによるものとします。

2. 事業概要

第2回公募に係る畜産振興事業は、日本中央競馬会法（昭和29年法律第205号）第19条第4項の規定に基づき、国の畜産振興諸施策（激甚災害（東日本大震災においては東京電力福島第一原子力発電所事故を含む。）による被災地（以下「被災地」という。）支援措置を含む。）を補完し、総合的な観点から畜産振興が図られるよう、民間の事業主体による畜産の振興に資するための事業の実施を助長する事業で、平成30年度中に緊急的に実施する必要がある事業について、競馬会が事業費を助成するものです。

なお、助成に関わる業務については、（公財）全国競馬・畜産振興会（以下「振興会」という。）が実施します。

3. 公募する事業

公募する事業は、平成30年度中に緊急的に実施する必要がある事業とします。

公募する事業テーマは、別紙1の1のとおりとし、そのうち重点的に対応する事項は、別紙1の2のとおりとします。

なお、事業テーマが異なる事業（同じ事業テーマであっても、事業内容が異なるもの）については、それぞれの事業を別に応募するものとします。

4. 事業要件

（1）助成対象事業は、国が行う畜産関係補助事業との役割分担を明確化するため、「食料・農業・農村基本法」（平成11年法律第106号）及び「酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律」（昭和29年法律第182号）等に基づき策定される方針（以下「国の基本方針」という。）に基づく基幹的な事業又は基礎的な研究開発等については、助成対象としないものとします。

なお、国の基本方針に基づく基幹的な事業又は基礎的な研究開発等とは、次のいずれかに該当するものとします。

- ① 畜産の生産基盤又は畜産にとって基幹的な役割を果たす施設を整備しようとするもの。
- ② 直接的に農家の経営安定を図ろうとするもの。
- ③ 直接的に農畜産物等の価格安定を図ろうとするもの。
- ④ 国の役割・責任が位置付けられており、その実現のために実施するもの。
- ⑤ 基礎的な研究開発を目的とする事業であって当該事業実施により畜産業に対する直接

的な効果又は成果が得られないもの。

- ⑥ 現に国が民間団体に対する助成として実施しており、補完の必要性がないと判断されるもの。

(2) 助成対象事業は、施行規則第2条の7第1号から第7号に適合し、次の要件を満たすものとします。

- ① 事業の必要性及び緊急性が高く、全国を対象としたもの又は全国的な効果を期待し得るものであること。ただし、被災地支援に係る事業にあつては、被災地を対象としたもの又は被災地に対する効果を期待し得るもの、特定の地域に限定した担い手の確保に係る事業にあつては、高い事業効果（成果）を期待し得るものであること。
- ② 畜産の振興に資することが明確に認められるものであること。
- ③ 国による助成が期待し難いものであること。
- ④ 民間団体が自発的に行うものであること。
- ⑤ 国の基本方針との整合性を有するものであること。
- ⑥ 事業の目的が達成される事業内容となっていること。
- ⑦ 事業の内容が奨励金等の個人への直接的な助成又は会議、催事、普及・啓蒙活動等のみでないこと。
- ⑧ 調査研究そのものは外部に委託し、委託先の審査のみを行うような事業でないこと。
- ⑨ 研究開発を目的とする事業（以下「研究開発事業」という。）にあつては、新規性、先導性が認められること。
- ⑩ 専ら機械・施設の整備、資産の取得を目的とした事業でないこと。

5. 応募者の要件

(1) 畜産振興事業に応募できる者（以下「応募者」という。）は、次のいずれかに該当する法人又は団体等とします。

- ① 農業協同組合、農業協同組合連合会、漁業協同組合、漁業協同組合連合会、森林組合、森林組合連合会その他農林漁業者を構成員とする団体
- ② 事業協同組合
- ③ 公益社団法人又は公益財団法人
- ④ 一般社団法人又は一般財団法人
- ⑤ 高等学校又は大学（大学共同利用機関を含む。）
大学院生等の学生のみで事業に応募することはできません。（所属する研究機関において研究活動を行うことを本務とする職に就いている者（例：大学教員や企業等の研究者など）で、学生の身分も有する者については、ここでいう「学生」には含まれません。）
- ⑥ 社会福祉法人
- ⑦ 特定非営利活動法人（NPO法人）
- ⑧ その他競馬会理事長（以下「理事長」という。）が特に認める民間団体

(2) 応募者は、次の要件を満たすものとします。

- ① 畜産振興事業を行う意思及び具体的計画並びに畜産振興事業を適確に実施し、自ら評価できる能力を有すること。
- ② 組織、運営についての規約、代表者の定めがあり、経理その他の事務について、適切な管理及び処理能力を有していること。
- ③ 畜産振興事業により得られた成果について、公益の利用に供することを認め、かつ、その普及に努めること。
- ④ 国の補助金等において、不正な使用、不正な受給又は不正行為を行ったとして、平成29年度に補助金等の返還命令を受けていないこと、又は平成30年度の研究費への応募及び参加の停止を受けていないこと。
- ⑤ 同一事業について国及び地方公共団体等からの補助を受けていないこと。
- ⑥ 日本国内に所在し、事業全体及び交付された助成金の適正な執行に関し責任をもつことができること。

6. 助成金の補助率及び上限

畜産振興事業の区分ごとの助成金の補助率及び上限は下表のとおりです。ただし、助成金は審査の結果により応募額から減額されることがあります。

区 分		補 助 率	上 限
【 通常案件 】 別紙1の1に該当する案件 (重点対応案件に該当するものを除く。)		8/10以内	4千万円
	うち、少額案件	9/10以内	4百万円
【 重点対応案件 】 別紙1の2に該当する案件	別紙1の2(1)、(2) 及び(5)～(7)	理事長が別に 定める率	—
	別紙1の2 (3)及び(4)		4千万円

- ※1：補助率は、助成対象経費のうち助成金額の占める割合です。
- ※2：上限は、単年度当たりの助成金の上限金額です。
- ※3：高等学校又は大学（大学共同利用機関を含む。）が応募者として行う畜産振興事業については、補助率を「理事長が別に定める率」とします。
- ※4：取得金額が50万円以上の機械・施設等の整備（リース契約満了後の譲渡条件付のもの、ソフトウェア開発費を含む）の補助率については、上記で定める補助率に関わらず、原則「5/10以内」とすることとします。
- ※5：複数年度にわたる事業については、初年度に総額と各年度の助成額を決定します。ただし、次年度以降は、事業の進捗状況を確認した上で、助成額を変更することがあります。

7. 助成対象経費の範囲

助成の対象となる経費は、別紙2のとおりとし、畜産振興事業の実施に直接必要な経費と

します。事務所貸借料にあたる「借室料」など、畜産振興事業の実施に直接必要と認められない経費は助成の対象外です。

8. 実施期間

畜産振興事業の実施期間は、原則として単年度とします。

ただし、事業内容から複数年度の実施期間が必要である特別な理由（必要性及び緊急性）があるものは、その理由及び複数年度に係る事業計画を応募書類に記載していただきます。この場合、実施期間の妥当性について審査の上、最長3年を限度として複数年度の実施期間を認める場合があります。

9. 公募期間

平成30年7月2日（月）から平成30年7月13日（金）まで。

なお、応募書類の受付締切は、平成30年7月13日（金）正午必着とします。

10. 応募手続き

(1) 応募書類

別紙3の「平成30年度日本中央競馬会畜産振興事業に係る応募書類作成要領」の内容等を確認の上、以下の応募書類等により応募して下さい。

【応募書類】

○ 提案書

- ① 様式1号：平成30年度第2回日本中央競馬会畜産振興事業応募書
- ② 様式2-1号：事業計画書（研究開発事業）
様式2-2号：事業計画書（研究開発事業以外の事業）
- ③ 様式3号：事業実施体制
- ④ 様式4号：事業実施工程表
- ⑤ 様式5号：事業達成目標等
- ⑥ 様式6号：事業積算根拠
- ⑦ 様式7号：委託調書

※その他必要に応じて、応募事業内容を説明するための資料等を添付。

○ 応募者の概要

- ⑧ 様式8号：法人又は団体の概要
- ⑨ 応募者が定める以下の規程等（これらの定めのない者にあつては、これに準ずるもの。）
 - ア 「定款」又は「寄附行為」若しくは団体等の目的、業務内容が分かる規程等（高等学校、大学及び社会福祉法人を除く。）
 - イ 組織、就業、職員給与、会計処理、決裁、文書取扱、公印取扱に関する規程等
- ⑩ 平成29年度実績及び平成30年度計画に係る総会資料等若しくはこれに類する資料

(高等学校、大学を除く。)

- ⑪ 応募者の活動概要等が判るパンフレット等
- その他
 - ⑫ 様式9号：応募書類チェックシート
 - ⑬ 受付確認用返信ハガキ 1枚

(2) 応募方法等

① 応募方法

応募は、原則として「郵送又は宅配便(含バイク便)」とし、やむを得ない場合は、「持参」も可能とします。また、応募書類のうち様式1号については、電子メールにて電子媒体(PDF不可、Word等のファイル形式指定)でも提出してください。その際、提出ファイルの件名の【 】内に団体名を記入して下さい。

郵送する場合は、簡易書留等を利用し、配達されたことが証明できる方法によるものとします。また、余裕をもって発送し、応募期間内に必着するようにして下さい。

② その他

- ・事業応募に要する費用は、応募者の負担とします。
- ・応募書類提出後に書類の修正のある場合は、平成30年7月13日(金)正午までに応募書類一式を再度、提出して下さい。
- ・応募書類は、パソコンのワープロソフト等を用いて作成し、印字した文書を提出して下さい。応募書類は、様式毎に両面印刷とし(ホッチキス止めは不要)、①～⑧までの資料を1セットとしてクリップ止めをしたものを15部(正1部、副14部)、⑨～⑪までの資料を3部、⑫「応募書類チェックシート」1部を、⑬「受付確認用返信ハガキ」1枚と併せて提出して下さい。
- ・複数の事業に応募する場合は、応募事業ごとに一つの封筒に入れて、提出して下さい。
- ・応募書類については返還しませんので、あらかじめご了承下さい。

◎ 公募に係る問い合わせ先

〒106-8401

東京都港区六本木6丁目11番1号

日本中央競馬会 総合企画部 特別振興事業室

TEL：03-3591-5251(代表)

E-mail：chikusanshinkou@jra.go.jp

※公募に関する問い合わせについては、月～金曜日(祝祭日を除く。)の午前10時から午後4時(正午から午後1時までを除く。)とします。

◎ 応募書類の送付先(公募に係る問い合わせにはお答えできません。)

〒105-0004

東京都港区新橋4丁目5番4号

公益財団法人 全国競馬・畜産振興会 業務部 畜産振興課

TEL：03-5777-0733(直通)

E-mail : chikusan@jrl.jrao.ne.jp

※応募書類のうち様式1号については、上記のメールアドレスに添付して送信して下さい。

※応募書類の各様式の入手・送付等に関する問い合わせについては、月～金曜日（祝祭日を除く。）の午前10時から午後4時とします。

(3) 応募情報の管理

応募書類及び応募書類に記載された情報については、当該公募に係る事務手続き以外の目的で応募者に無断で使用することはありません。

(4) 応募の取り下げ

応募者が、応募書類の作成・提出後に応募を取り下げようとするときは、11の(3)による審査結果通知を受けるまでに（取り下げる事由が発生したら速やかに）、その旨を振興会へご連絡下さい。

11. 応募事業の審査

(1) 畜産振興事業審査委員会等による審査

提出された応募書類については、競馬会において事前審査（応募者の要件等）を行った後、競馬会に設置する外部有識者等からなる畜産振興事業審査委員会（以下「審査委員会」という。）による審査を経て、事業の選定を行います。なお、必要に応じて応募内容を確認するための面談や追加資料の提出を求める場合があります。

また、国が行う畜産関係補助事業との役割分担を明確化するため、国の基本方針に基づく基幹的な事業又は基礎的な研究開発等ではないか国に照会を行います。

(2) 事業の決定

選定した事業は、農林水産大臣の認可を受けて、事業実施が決定されます。

(3) 審査結果の通知等

- ① 審査結果（採択・非採択）については、競馬会から応募者に通知します（平成30年8月頃を予定。ただし、法人格等の応募者要件の適否等にかかる結果は、事前に通知します。）。
- ② 審査は非公開で行われ、審査の過程に関する問い合わせには応じられませんので、ご了承下さい。
- ③ 採択の通知は、審査委員会で選定されたことをお知らせするもので、助成金の交付には、別途手続きが必要です。
- ④ 実施が決定された事業は、事業実施主体、事業名、事業内容、助成額等を競馬会のホームページで公表します。

12. 事業実施主体の責務等

(1) 事業の推進

事業実施主体は事業実施に係る関係規程を遵守し、事業全般について責任を持つとともに、善良な管理者の注意をもって事業を推進しなければなりません。また、事業の推進に当たっては、進行管理等を行う外部専門家・外部有識者からなる委員会を設置する必要があります。

(2) 事業成果の評価

事業終了時、外部専門家・外部有識者からなる委員会（（1）の委員会と兼ねることができます。）により事業達成目標に対する自己評価を実施する必要があります。また、研究開発事業については、競馬会に設置する外部有識者等からなる評価委員会による事後評価の対象となることがあります。

なお、自己評価、事後評価ともに評価結果は、競馬会のホームページで公表します。

(3) 補助金等適正化法の適用、区分経理と監査の実施

事業は、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」（昭和30年法律第179号）が適用されるとともに、当該事業に係る経理については、その他の経理と明確に区分し、その収支の状況を会計帳簿等によって明らかにしておかなければならず、その会計帳簿及び収支に関する証拠書類は、事業終了後5年間保存しておく必要があります。また、事業実施主体及び委託先等が行う事業は、振興会が監査を行います。

(4) 事故報告

事業実施主体は、事業を予定の期間内に完了することができないと見込まれる場合、又は事業の遂行が困難となった場合には、速やかに振興会へ事故報告を行い、その指示を受けなければなりません。

(5) 取得財産等の管理

事業により取得し、又は効用の増加した財産（以下「取得財産等」という。）の所有権は、事業実施主体に帰属しますが、財産の管理については、善良な管理者の注意をもって管理するとともに、処分に関しては次のような制限があります。

- ① 取得財産等については、振興会の承認を受けずに助成金の交付の目的に反する使用、譲渡、交換、貸付け又は担保として提供（以下「処分」という。）することはできません。
- ② 振興会がやむを得ないと認めた場合は、理事長の承認を得て、処分を認める場合があります。
- ③ 前項に定める承認を得た取得財産等の処分により収入を得た場合、その収入の全部又は一部を納付することになります。
- ④ 取得財産等の処分を制限する期間は、当該取得財産等の耐用年数と同じとします。

(6) 消費税及び地方消費税の取り扱い

- ① 助成金の交付申請書を提出するに当たって、助成対象経費に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額（助成対象経費に含まれる消費税及び地方消費税相当額のうち、消費税法（昭和63年法律第108号）の規定により仕入れに係る消費税額として控除できる部分の金額及び当該金額に地方税法（昭和25年法律第226号）の規定による地方消費税の税率を乗じて得た金額の合計額に補助率を乗じて得た金額をいう。）がある場合は、これを当該助成金の申請額から減額して申請する必要があります。ただし、申請時において、助成対象経費に係る消費税仕入控除税額が明らかでないときは、この限りではありません。
- ② ①ただし書により申請した場合において、消費税の確定申告により助成対象経費に係る消費税仕入控除税額があることが確定したときは、当該消費税仕入控除税額を速やかに振興会へ報告する必要があります。また、助成対象経費に係る消費税仕入控除税額が明らかにならない場合又はない場合であっても、その状況等について、毎事業年度の終了後90日以内に、振興会へ報告する必要があります。

(7) 特許権等の帰属

事業実施主体は、本事業の成果により特許権等の知的財産権を申請するときは、書面によりその旨を遅滞なく、振興会に報告することになります。なお、これらにより得られた知的財産権は、事業実施主体に帰属します。

(8) 収益状況の報告及び収益納付

事業実施主体は、本事業の成果により取得した知的財産権や当該成果の実用化・製品化により収益が生じた場合は、事業の採択後に振興会が実施要領において定める当該事業による年間の収益の状況を記載した収益状況報告書をもって、当該事業の完了した事業年度の翌年度から起算して5年間、毎年、各事業年度末から90日以内に振興会に報告することになります。

また、収益状況報告に基づき、事業の実施により事業実施主体に相当の収益が生じたと認められるときは、振興会は、当該事業について交付された助成額の全部又は一部に相当する金額について納付を求めます。

なお、収益納付すべき期間は、事業が終了した事業年度の翌年度以降5年間とします。

(9) 事業成果の公表等

本事業による成果等について、原則として、競馬会の助成によるものであることを明示の上、印刷物の配布、プレスリリース、インターネット及びシンポジウム等により公表していただきます。

(10) 情報の公開

事業実施主体は、定款、寄附行為等の規約、事業計画書、財産目録、貸借対照表、収支決算書及び役員名簿（これら資料がない者にあつては、これに準ずるもの。）の情報公開を行うことを採択の条件とします。（高等学校、大学を除く。）

13. 採択の取消し及び助成金の返還

(1) 採択の取消し

応募内容や採択後の報告内容に虚偽があることが明らかになったとき、助成金を助成対象事業以外の用途に使用したときなどの場合は、助成対象事業としての採択の全部又は一部を取り消すことがあります。

(2) 助成金の返還

上記(1)により助成金の採択が取り消された場合において、当該取消しに係る部分に関し、既に助成金が支払われているときは、振興会は、期限を定めてその返還を請求します。

なお、当該期限までに返納すべき助成金を納付しなかったときは、当該期限の翌日から納付の日までの日数に応じ、その未納付額につき年 10.95 パーセントの割合で計算した延滞金を納付する必要があります。

14. 事業の公募から助成金交付までのスケジュール

項 目	時 期
公募開始	平成 30 年 7 月 2 日 (月)
<u>公募締切 (提出期限)</u>	<u>平成 30 年 7 月 13 日 (金) 正午</u>
審査	平成 30 年 7 月中
採択事業の決定	平成 30 年 8 月上旬
助成金交付申請書等の提出	平成 30 年 8 月頃 (予定)
助成金交付決定 (事業の開始)	平成 30 年 8 月頃 (予定)
助成金交付 (概算払の場合)	平成 30 年 9 月頃 (予定)

【 参 考 】

日本中央競馬会法（抜粋）

（業務の範囲）

第19条

- 4 競馬会は、第1項及び第2項に掲げる業務のほか、農林水産省令で定めるところにより、あらかじめ農林水産大臣の認可を受けて、次に掲げる事業（第36条第1項において「畜産振興事業等」という。）であつて農林水産省令で定めるものについて助成することを業務とする法人に対し、当該助成に必要な資金の全部又は一部に充てるため、交付金を交付する業務（これに附帯する業務を含む。）を行うことができる。

日本中央競馬会法施行規則（抜粋）

（畜産振興事業等）

第2条の7 法第19条第4項の農林水産省令で定める事業は、次の各号に掲げる事業とする。

- (1) 畜産の経営又は技術の指導の事業
- (2) 肉用牛の生産の合理化のための事業
- (3) 生乳の生産の合理化のための事業
- (4) 家畜衛生の向上のための事業
- (5) 畜産の技術の研究開発に係る事業
- (6) 畜産に係る公害の防止及び自然環境の保全のための事業
- (7) 次に掲げる事業であつて、畜産の振興に資すると認められるもの
 - イ 農村地域における良好な生活環境の確保を図るための事業
 - ロ 農業経営の近代化を図るための事業
 - ハ 農村地域における安定的な就業の促進を図るための事業
 - ニ 農林水産業に関する技術の研究開発に係る事業
 - ホ 農林水産業に係る公害の防止及び自然環境の保全を図るための事業

国の基本方針

- ・ 新たな食料・農業・農村基本計画：http://www.maff.go.jp/j/keikaku/k_aratana/index.html
- ・ 酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針：
<http://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/lin/pdf/rakunikukin.pdf>

平成30年度日本中央競馬会畜産振興事業の公募テーマ

1 公募する事業テーマ

公募する事業は、畜産の振興による食料自給率の向上、多様な畜産経営の育成及び安全・安心な畜産物の供給を目的とし、畜産の現場への即時応用を前提とした技術の研究開発、調査研究及びこれらの成果を含む畜産経営に対する適切な情報提供等を行うものとし、

具体的には、現状の課題を踏まえた必要性や緊急性、新技術の応用等の新規性、国等が実施している畜産関連施策の補完効果が高く、効果並びに目的と手段が明確な、次の各項目に掲げるものとし、

- (1) 自給飼料の生産・利用の促進
- (2) 担い手の確保（特定の地域における担い手の確保を含む。）
- (3) 経営改善の助長・支援
- (4) 多様な形質の家畜改良と効率的な飼養管理技術の普及
- (5) 畜産物の生産・流通対策
- (6) 畜産に係る環境問題の対策
- (7) 家畜衛生の向上のための対策
- (8) その他畜産振興に資するもの

2 1のうち重点的に対応する事項

- (1) 激甚災害（東日本大震災においては東京電力福島第一原子力発電所事故を含む。）による被災地の畜産振興に向けた畜産関連復興対策
(注) 国及び被災した地方自治体を実施する畜産関連復興対策を補完するもので、特に、必要性が高く、効果並びに目的と手段が明確なものとし、
- (2) 畜産における働き方改革（労働負担の軽減等）
- (3) 畜産現場における女性の活躍推進
- (4) 障がい者が畜産現場に参画しやすい労働環境の創出
- (5) 畜産物の安全確保
- (6) 畜産物の生産・流通システムの高度化（国産畜産物の国際競争力強化のための高付加価値化、生産コストの低減等）
- (7) 重要な家畜疾病（口蹄疫、鳥インフルエンザ、豚流行性下痢、馬インフルエンザ等）の防疫関連対策

日本中央競馬会畜産振興事業の助成対象経費

区分	対象経費	基準単価（上限）等	備考
直接経費	委員謝金 調査協力謝金	7,900 円／日	・ 委員への委嘱を行った学識経験者又はこれに準ずると認められる者への委員会への出席、調査協力等に係る謝金。
	講師謝金	7,900 円／時間	・ 委嘱する者の経歴、職責等を考慮の上、基準単価を参考に適正な単価を設定。
	原稿料	1,500 円（400 字）	・ 学識経験者等へ執筆を依頼した場合の原稿料。
	旅費		・ 公共交通機関運賃（鉄道運賃、航空賃等）、レンタカー代、日当、宿泊費。 ・ 謝金を支給する場合、謝金支給当日の「日当」は対象外。 ・ 実費支弁を原則とする（事業実施主体の役職員（アルバイトを除く）がその旅費規程により出張する場合を除く）。
	会場借料		・ 特に必要な場合のみ、所要額。 ・ 事業実施主体の会議室を使用する場合は対象外。
	印刷・製本費		・ 事業に係る報告書、研修会テキスト等の印刷・製本、会議資料等のコピー代金。
	通信運搬費		・ 郵送料、メール便・宅配便等代金。
	賃借料		・ 事業に必要な事務機器のリース料（リース契約満了後の譲渡条件付のものを除く）。 ・ 事務所の借料（光熱水料を含む）、地代など事業実施主体が本来負担している経費は対象外。
	消耗品費		・ 用紙類、その他事務用品等の購入経費。
	機械・施設等の整備、資産の取得費		・ 調査研究等に必要な機器等の整備費（リース契約満了後の譲渡条件付のもの、ソフトウェア開発費を含む）。 ・ 取得価格が 50 万円（消費税を含む。）以上のものについては、固定資産として管理すること。
	管理諸費		・ 振込手数料等、その他の経費。
	賃金		・ 資料整理、補助的事務等を目的に事業実施主体が雇用した者等に対して支払う労賃及び社会保険料等の事業主負担分に要する経費であって、作業日誌等で確認できる従事度合い（日数又は時間）に応じて支払う額。 ・ 賃金単価については、事業実施主体の賃金支給規則や国の規程等によるなど、業務の内容に応じた常識の範囲を超えない妥当な根拠に基づき単価を設定。 ・ 国及び地方公共団体からの交付金等で人件費の全額を負担している事業実施主体は対象外。

区分	対象経費	基準単価（上限）等	備考
直接経費	技術指導事務費		<ul style="list-style-type: none"> 企画・立案、現地調査・技術指導、資料作成等事業の推進のための事業実施主体の職員等の活動に係る経費であつて、作業日誌等で確認できる従事度合い（日数又は時間）に応じてその対価として支払うもの及び社会保険料等の事業主負担分の当該職員等を雇用するための経費。 技術指導事務費単価については、事業実施主体の賃金支給規則や国の規程等によるなど、業務の内容に応じた常識の範囲を超えない妥当な根拠に基づき単価を設定。 国及び地方公共団体からの交付金等で人件費の全額を負担している事業実施主体は対象外。
	事業促進費		<ul style="list-style-type: none"> 被災地における畜産の活性化及び復興の加速化の促進等、事業実施に特に必要と認められる経費。
	委託費		<ul style="list-style-type: none"> 事業を実施する上で、その一部分（試料の分析等であつて事業実施主体が自ら行うことのできないもの、若しくは委託することにより、経費が安価となるものに限る。）を他に委託する経費。 様式7に委託先等を記載。
	事務諸費	<ul style="list-style-type: none"> 明確な案分比率を定め（例えば、事業実施主体の総事業費に占める当該事業の事業費の割合や事務機器のリース料については、その使用実態に応じた、当該事業による負担割合）、その比率に基づき、所要経費を算出。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記で示す対象経費のうち、通信運搬、貸借料、消耗品費等で事業ごとの支出額が特定できない共通経費（切手代等の支出が特定できるものは含まない）。 様式6号の作成にあつては、事務諸費とする各経費を計上するとともに、「備考」欄に案分比率の算出根拠を記載。
間接経費	研究施設維持運営費	<ul style="list-style-type: none"> 直接経費の20%以内、若しくは事務諸費の「基準単価等」欄で示した案分比率により算出した額のいずれか低い額。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究機関等が事業の実施に関連して間接的に必要とする研究施設の維持運営に要する経費。 様式6号の作成にあつては、事務諸費とする各項目を計上するとともに、「備考」欄に案分比率の算出根拠等を記載。

※ 会議費（お茶代等）は助成対象としない。

【様式1号】

平成 年 月 日

平成30年度第2回日本中央競馬会畜産振興事業応募書

受付番号

(記入しないで下さい)

1. 応募事業名等

応募事業テーマ (少額案件)	
重点対応事項 (該当する場合のみ記載)	
応募事業名	
応募区分	研究開発事業 ・ 研究開発事業以外の事業

2. 応募者

応募者名	
住所	〒
代表者名	役職名： (フリガナ) 氏名： ㊟

3. 事業窓口担当者（大学にあっては研究代表者）連絡先

担当者名	所属部署： 役職： (フリガナ) 氏名：
住所	〒
電話番号	
FAX番号	
E-mailアドレス	

4. 事業概要

5. 事業内容

6. 事業実施期間

平成 年度（若しくは平成 年度～ 年度）

7. 事業費及び助成額

区 分	□□年度	合計
事 業 費 (千円)		
うち助成額 (千円)		

8. 事業成果の公表・普及

日本中央競馬会は、畜産振興事業の成果の積極的な普及を目指しておりますが、応募された事業成果について、どのような方法で公表・普及を図っていくことをお考えですか？（○をつけて下さい。（複数回答可。））

	印刷物の配布
	プレスリリース
	インターネット
	シンポジウム
	その他（アイデアがあれば自由に記入して下さい。）
	考えていない

※ 日本中央競馬会畜産振興事業をどのように知って応募されましたか？

（○をつけて下さい。（複数回答可。））

	以前から知っていた
	J R Aホームページを見て
	日本畜産学会のホームページを見て
	日本草地学会のホームページを見て
	日本獣医学会のホームページを見て
	全国農業高等学校長協会のホームページを見て
	日本農業新聞を見て
	畜産情報ネットワーク（L I N）を見て
	公募のチラシ、ポスターを見て
	その他（例：〇〇誌を見て） （ ）

〇〇〇〇〇事業計画書

事業実施主体名 : _____

1. 事業の概要

2. 事業の目的

(1) 事業の必要性・緊急性

(2) 国の施策との関連性

(3) 新規性・先導性

3. 事業の内容

(1) 研究開発事業の実施内容、マイルストーン

(2) 研究開発事業を実施する上での課題と対応

(3) 研究開発事業実施の準備状況

① 研究開発事業と関連するこれまでの研究開発や取組みの経緯と成果

② その他の予備的な知見やデータ

4. 事業実施期間

平成 年度（若しくは、平成 年度 ～ 平成 年度）

【複数年度にわたり事業を実施する理由】（該当する場合のみ）

5. 事業費及び助成額

区 分	□□年度	合計
事 業 費（千円）		
うち助成額（千円）		

※ 複数年度にわたる事業は、年度毎の事業費等を記載。

※ 積算内訳は様式6号に記載。

6. 事業の目標等

(1) 研究開発事業が目指す目標および成果

(2) 成果の畜産現場への普及の展望・波及効果

〇〇〇〇〇事業計画書

事業実施主体名 : _____

1. 事業の概要

2. 事業の目的

(1) 事業の必要性・緊急性

(2) 国の施策との関連性

3. 事業の内容

(1) 事業の実施内容等

(2) 事業を実施する上での課題と対応

4. 事業実施期間

平成 年度 (若しくは、平成 年度 ~ 平成 年度)

【複数年度にわたり事業を実施する理由】(該当する場合のみ)

5. 事業費及び助成額

区 分	□□年度	合計
事業費（千円）		
うち助成額（千円）		

※ 複数年度にわたる事業は、年度毎の事業費等を記載。

※ 積算内訳は様式6号に記載。

6. 事業の目標等

(1) 事業が目指す目標および成果

(2) 成果の畜産現場への普及の展望・波及効果

〇〇〇〇〇事業実施体制

事業実施主体名： _____

1. 事業実施分野

区 分	氏 名	役 職	類似事業の 経験年数
総括担当			
〇〇担当			
〇〇担当			
〇〇担当			
〇〇担当			
〇〇担当			
〇〇担当			

※事業実施（経理を除く）において、予定する担当者を全て記載

2. 経理処理分野

区 分	氏 名	役 職	類似事業の 経験年数
総括担当			
〇〇担当			
〇〇担当			
〇〇担当			
〇〇担当			
〇〇担当			
〇〇担当			

※経理処理において、予定する担当者を全て記載

3. 各分野における実施及びチェック体制

(1) 事業実施分野

(2) 経理処理分野

4. 実施体制の構成図

5. 研究開発事業における関連する取組みリスト

氏 名				
《 経 歴 》				
《 応募・受入等の状況・エフォート 》				
(1) 応募中の研究開発				
資金制度・研究費名 (研究期間・配分機関等名)	事業名 (研究代表者氏名)	H30 度研究経費 (期間全体額) (千円)	エフォート (%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加え本事業に応募する理由
(2) 受入予定の研究開発				
資金制度・研究費名 (研究期間・配分機関等名)	事業名 (研究代表者氏名)	H30 度研究経費 (期間全体額) (千円)	エフォート (%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加え本事業に応募する理由

(3) その他の活動				
合計	※上記(1)、(2)、(3)の effort の合計		100%	
《 主要な実績 》				
《 JRA 畜産振興事業における研究開発事業の実施（又は参画）実績 》				

〇〇〇〇〇事業実施工程表

複数年度にわたる事業は年度毎の工程を記載

区 分	事業内容	H 3 0 年度				〇〇年度				▲▲年度			
		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月

様式5号

〇〇〇〇〇事業達成目標等

事業実施主体：〇〇〇〇〇

1 事業の目的

(1) 必要性・緊急性

(2) 国の施策との関連性

(3) 新規性・先導性（研究開発事業のみ）

2 達成目標

(1) 成果目標

(2) 直接目標

3 達成指標

(1) 成果指標

① 最終成果指標

項目	単位	現状（基準）値 （〇年度）	目標値 （〇年度）	検証データ等

【目標設定根拠】

② 中間成果指標

項目	単位	現状（基準）値 （○年度）	目標値 （○年度）	検証データ等

【目標設定根拠】

(2) 直接指標

項目	単位	現状（基準）値 （○年度）	目標値 （○年度）	検証データ等

【目標設定根拠】

4 評価の実施体制等

(1) 評価の実施体制

(2) 検証・評価方法

① 最終成果指標

② 中間成果指標

③ 直接指標

〇〇〇〇〇事業積算根拠

(平成 年度)

千円

区 分	平成〇〇年度			補助率	負担区分			備 考
	員数	単価 円	金額 千円		助成金 千円	事業実施主体 千円	その他 千円	
計								

※1：「区分」欄は、様式4号の区分毎に公募要領別紙2の「対象経費」を記載。

※2：技術指導事務費の単価は、原則として、「(年間総支給額+年間法定福利費)÷年間理論総労働時間」(年間総支給額及び年間法定福利費は前年度支給実績を用いる)により算定。

様式7号

〇〇〇〇〇事業委託調書

(委託を行う場合は作成)

事業実施主体：〇〇〇〇〇

1. 委託する事業内容

2. 委託額が総事業費に占める割合

項目	員数	単価	事業費	助成額
〇〇〇〇事業				
(○) 〇〇調査				
① 調査旅費	○人	・ ・	・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・
② 調査票印刷	○部	・ ・	・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・
③ 調査結果取りまとめ	○人	・ ・	・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・
④ ・ ・ ・ ・				
	・ ・	・ ・	・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・
計 A			・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・
総事業費 B			・ ・ ・ ・ ・	・ ・ ・ ・ ・
委託割合 (A/B)			・ ・ %	・ ・ %

3. 委託先の選定方法 (該当する項目を記載)

- (1) 競争入札・企画コンペ
- (2) その他類似の競争性をもって選定する方法

【※方法を記載】

- (3) 随意契約

※別紙として、契約先の概要及び随意契約とする特別な理由を添付して下さい。

4. 委託する特別な理由

様式8号

法人又は団体の概要

(平成 年 月 日現在)

1. 法人又は団体の概要

法人又は団体名							
所在地							
電話番号・FAX番号							
所管省庁・所管課							
共管省庁							
設立の根拠法令等							
設立年月日							
代表者職名・氏名							
<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;">理事数</td> <td style="padding: 5px;">監事数</td> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 5px;">職員数</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;">会員数</td> <td style="padding: 5px;">賛助会員数</td> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 5px;">評議委員数</td> </tr> </table>	理事数	監事数	職員数	会員数	賛助会員数	評議委員数	
理事数	監事数	職員数					
会員数	賛助会員数	評議委員数					
設立目的							
事業内容							
その他（機関誌、出版物、支部所在地、具体的な事業概要等）							

2. 役員等一覧

役職名（常勤・非常勤の別）	氏 名	主な所属（本務）

※ 公務員OBが役員に就任している場合は、「主な所属」の欄に最終官職を記載。

3. 国等の補助事業等の実施状況

(単位：千円)

区 分	事 業 名	事業概要	実施期間	交付決定額
農林水産省	〇〇〇〇〇〇〇〇	※事業目的、実施内容を簡潔に記載	H27	〇〇〇,〇〇〇

※ 応募する事業分野に係る国（省庁名）、独立行政法人、地方公共団体、地方独立行政法人、日本中央競馬会（JRA）、その他の民間団体（団体名、基金名等を記載）からの補助（又は助成）事業等（委託事業を含む。）の実施状況として、27年度から30年度に実施している事業を全て記載。

応募書類チェックシート

応募事業テーマ (少額案件)	
重点対応案件 (該当する場合のみ)	
応募事業名	
応募者名	
応募区分	研究開発事業 ・ 研究開発事業以外の事業

申請者 チェック欄	様 式	提 出 書 類	提出 部数	振興会 チェック欄 (※)
<input type="checkbox"/>	様式 9 号	応募書類チェックシート (本紙)	1 部	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	様式 1 号	平成 30 年度第 2 回日本中央競馬会畜産振興事業応募 書 (アンケートに御協力願います。)	15 部	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	様式 2 号	事業計画書	15 部	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	様式 3 号	事業実施体制	15 部	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	様式 4 号	事業実施工程表	15 部	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	様式 5 号	事業達成目標等	15 部	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	様式 6 号	事業積算根拠	15 部	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	様式 7 号	委託調書	15 部	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	様式 8 号	法人又は団体の概要	15 部	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	(必要に応じ)	応募事業内容を説明するための資料等	15 部	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>		定款又は寄附行為若しくはこれに類する規程	3 部	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>		平成 29 年度実績及び平成 30 年度計画に係る総 会資料等若しくはこれに類する資料	3 部	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>		活動概要パンフレット等	3 部	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>		受付確認用返信ハガキ	1 枚	<input type="checkbox"/>

- (注) 1 申請書類について漏れがないかチェックの上、本紙も提出して下さい。
 2 本紙は、応募 1 件ごとに 1 枚作成して下さい。
 3 振興会チェック欄 (※) には記入しないで下さい。

【受付確認用返信ハガキ記入例】

応募の受付を通知しますので、記入例に基づき作成したハガキを1枚同封して下さい。

<table border="1"><tr><td style="text-align: center;">62 円 切手貼付</td></tr></table>	62 円 切手貼付	〒 郵便番号	住 所
62 円 切手貼付			
又は 官製ハガキ	代 表 者 氏 名		

受付通知書	
応募事業名：○○○○○事業 ※事業名は必ず記入してく ださい。	
受付 番号	(ここは振興会で記入します。)